

# 29N-pm02

(+) リゼルグ酸の合成研究

○井上 暢<sup>1</sup>, 横島 聡<sup>1</sup>, 福山 透<sup>1</sup> (東大院薬)

【目的】リゼルグ酸(1)は様々な生理活性を持つ麦角アルカロイド種の構成分子であり、数多くの全合成例が報告されている。我々は麦角アルカロイド種の生理活性とリゼルグ酸(1)の4環性の特異な構造に興味を持ち、合成研究に着手した。

【結果】D環に相当するアルデヒド5の合成を以下のように行った。L-ピログルタミン酸から調製可能なエナミン誘導体2をジブロモシクロプロパン化後、環拡大反応により3を得た。続いて3を酸性条件下還元することで4へと変換し、パラジウム触媒を用いたカルボニル化を含む3工程で5へと導いた。現在、5とA環に相当するユニット6との Horner-Emmons 反応による連結と続くラジカル条件下でのインドール骨格の構築を検討中である。

